

9月16日(出) 実践報告第11室(733)

プロセスを重視したパブリック・スピーチの授業  
Process-Oriented Public Speech Class

塩沢泰子  
(八千代国際大学)

キーワード：パブリック・スピーチ、プロセス、総合プロジェクト、Interlanguage、readiness

### 1. 授業の背景、および目的

国際社会のボーダーレス化に伴い、日本人が英語でspeak outする必要性が叫ばれている。それも、単なる自己主張ではなく、相手に分かりやすく、論理的に話すことが要求されている。そのような実社会のニーズに対して、大学の英語の授業にパブリック・スピーチを取り入れることは極めて妥当と言えよう。

また、中学、高校の学習指導要領では、communicative approachが浸透し、speakingが強化されるようになった。従って、大学において、日常会話のレベルから、自己の考えを表現するパブリック・スピーチへと高めることは、英語教育の一貫生にも資する。

さらに、スピーチの授業は、準備、発表、評価、といったプロセスを重視し、きめ細かに指導し、総合的なプロジェクトとすることにより、資料のreading、Interlanguageである学生のスピーチのoutput, inputを通して4技能全てを向上させることが可能である。

筆者の属する大学は、政治経済学部のみで、英語そのものへの関心、基礎力は決して高くはないものの、「対話共存」の校是の下、1年次よりゼミがあり、討論、口頭発表が重視されている。英語によるスピーチはこういった大学の方針、性格、学生のニーズにも合致する。

しかし、実際、40～50人というクラスサイズで、パブリック・スピーチを効果的に行なうには様々な問題があり、これまで何度か試みてきたものの、中途半端なものに終わっていた。そこで今回は入念な準備をし、学生のmotivationやreadinessを十分高めてからスピーチを発表させ、また、全員参加で評価する、というプロセスを重視した授業を行ない、満足できる結果を得られたので、その方法、および結果について報告する。

### 2. 担当クラスの概況

政治経済学部の2年生。1クラス40～50名(9割が男子)で、3クラスにおいて実施。クラスの名称は英語Ⅲ・Ⅳで、目標は自己表現力を高めること。学生の英語力は個人差が大きい。

### 3. Procedure

94年度の後期の授業10週を使ってパブリック・スピーチの授業を進めた。

Class 1：スピーチを扱う意義、授業の進め方、評価方法、等をシラバスを配って説明。一連の授業、作業を「リサーチプロジェクト」と銘打って、自分が本当に興味を持っていること、調べたいことを自由にテーマに選び、調査、研究に基づいて400～500語のスピーチ原稿を作ることを条件とした。発表に際しては、プリント、OHP等を用いて分かりやすくすることを勧め、口頭発表したスピーチは、手直しをしてワープロで打って提出することを義務づけた。

Class 2～4：スピーチ原稿の書き方、deliveryの仕方について実際のスピーチコンテストのビデオ、原稿等を用い、詳しく指導。eye contactの練習として、1段落程度を暗唱して、前でdeliverする訓練も行なった。授業時間のうち30分程度をwork shopとし、相談、調査等の時間にあてた。

## 9月16日(出) 実践報告第11室(733)

Class 5～9：口頭発表。1 class hourに10人程度ずつ行い、全員発表をビデオ撮りした。個々の発表の後に教師が簡単に日本語や英語で補足し、内容確認を行なった。聴衆の学生には評価カードを配り、発表者をcontent, language, impressionの3つの観点から3段階評価した上でコメントを書かせた。発表者は後で自己評価カード(事前準備に何をどのくらいやったかなどを具体的に書き、自分なりの評価をする)を提出。これら聴衆の評価、発表者の自己評価は教師による評価に加味した。

Class 10：発表のビデオを1人15秒程度ずつ再生しながら講評を行なった。

## 4. 結果

最後の授業でスピーチに関する一連の授業の評価アンケートを実施した。その結果、スピーチの準備段階の授業においては、スピーチの構成、特徴などについてまとめた英語による講義、スピーチコンテストのビデオを用いた授業などが非常に好評で(6割以上が役に立った、ないしは非常に役に立った、と答えた)、こういった準備段階の授業により、それまでほとんど日本語ですら人前でスピーチしたことのなかった学生達に英語のスピーチのイメージトレーニングができたようであった。

スピーチ原稿を書くにあたっての条件(新聞記事、書物、アンケート、インタビュー等に基づく)、および長さ(400～500語)は前者は9割以上、後者は7割以上の学生が「妥当」と答えており、自己評価カードによれば学生によりスピーチにかけた時間、エネルギーにはばらつきがあるものの、この程度ならなんとかこなせ、またやりがいを感じられるものができたようである。

スピーチの発表についても、7割程度の学生が自分の発表、そして友人の発表の鑑賞も「勉強になった」としている。実際、学生の発表、および鑑賞態度はきわめて真剣であった。具体的には、人前で英語でスピーチをする度胸がついた、表現力がついた、調査することにより、その分野の知識、見解が広がった、自分の主張を英語でする楽しさを知った、友人の様々な意見を聴いて面白かった、等々非常にpositiveな感想が寄せられた。

パブリックスピーチを取り入れた授業は英語力だけでなく、大学生である彼らの知的好奇心、そして自己発信して行くときに最も必要な自信--self esteem--をつけるのに効を奏した、と言えよう。

## 5. 今後の課題

半年でスピーチの準備から発表、評価まで行なうのはかなり無理がある。40～50人のクラスで効果をあげるには1年かける必要があろう。例えば前期は1分程度のpractice speech、後期は3～4分、とした方が学生も慣れてより良いスピーチができると思われる。

大クラスでは、スピーチ発表に時間がかかる。従って聴衆の学生にいかに関心させるかが鍵となる。単に評価やコメントを書かせるだけでなく、スピーチのmessageを簡単に英語でまとめさせたり、語彙をlist upさせ、作文を課題にする、など工夫が必要であろう。

今回は原稿を事前にチェックしなかったが、あらかじめグループ分けしておいてグループ内で検討させるのもひとつの方法だろう。

大クラスでスピーチを行なうのは大変な反面、その多岐に渡るトピック、学生の意外な個性などに触れることができ、学生も教師も啓発される。今後も改善を重ね、pre-test, post-testなどにより、効果も検証しながら大いにスピーチの授業を発展させていきたい。

9月16日(土) 実践報告第11室(733)

## 資料1

最初の授業でこのプリントを配布し、このプロジェクトの目的、今後のプロセス等を十分に説明する。

# Research Project

## English III. IV

**Purpose:** to be able to convincingly express your ideas in English orally and in written form based on in-depth research. This project accounts for 40 % of your grade.

### Procedure:

- ① **Choose a theme** you are really concerned about. You can explore a topic your seminar is dealing with.
- ② **Investigate** it either by yourself or in a group. Your project has to include at least one of the following:
  - A. Citation of books, newspapers, magazines and journals.
  - B. Questionnaire.
  - C. Interview.
  - D. Dramatization in English.
- ③ **Write a report.** The length is about 500 words (one and a half pages in A4 25 lines). Use common words and short sentences so that your classmates can understand your oral report. Try to follow the organization written below.

Introduction

Body

Conclusion

- ④ **Present the project orally** in class. In order to convince the audience, you may need to visualize what you are presenting. For instance:

OHP, VCR, Handout

Your presentation will be evaluated from the following viewpoints. Do not just read the paper. Practice hard beforehand until you remember it.

Content: whether your point is clear or not. Whether the organization is logical or not.

Language: acceptable pronunciation, rhythm, stress, intonation and grammar.

Attitude: eye contact, body movement, impression.

### Class schedule

week 1. decide groups and themes

2 - 4. preparation / lesson on public speaking

5 - 8. oral presentation

9. evaluation, comment

**Deadline of the paper:** Hand in your typed paper one week after the evaluation.

9月16日(土) 実践報告第11室(733)

資料2

**Presentation Evaluation Form:**

一人一人の口頭発表を、真剣に、かつ客観的に聴かせる目的で、この表を用いて聴衆に評価させた。記入した用紙は回収し、教師による成績評価の参考とした。また、コメントの内容は整理し、講評時に読みあげた。

**Research Project Self Evaluation Form:**

Research projectの準備にどの程度努力したかを確認し、自分なりの評価をさせるために、口頭発表後、この用紙に自己評価を記入させた。この記入内容も成績評価に加味した。

Presentation Evaluation Form			
Speaker:			
Title:			
Content	A	B	C
Language	A	B	C
Attitude	A	B	C
Comment:			
Your name:			

Research Project Self Evaluation Form		
Name:		
Title:		
Time & Energy spent for	Time (hour)	Energy
1. Gathering materials		A B C
2. Wording the speech		A B C
3. Rehearsing the speech		A B C
4. Visualization for the presentation		A B C
5. any other		
Comment:		
Overall Grade:	A	B C